

少雨に対する農作物の技術対策（第5報）

平成29年6月20日
農業技術課
耕地課

1 経過

平成29年5月26日にまとまった降雨があった以降は、降雨が少なく土壌が乾燥しています。地域によっては、用水路や溜池などの水量も減少しています。

また、平成29年6月15日気象庁発表の「関東甲信地方の1か月予報」でも、前線や気圧の谷の影響を受けにくく、期間のはじめは、降水量が少ない状態が続く見込みです。

以下を参考に対策を徹底して下さい。

2 渇水対策

6月上中旬の降水量が少なく、河川流量が減少しており、農業用水の取水に影響が出ています。今後も少雨傾向が続くことが予想されることから、限られた水を地域で有効に活用するため、排水路からの再利用や時間、順番を決めて配水する「番水」を行うなど、節水に協力をお願いします。

3 技術対策（乾燥対策）

（1）果 樹

- ・モモ、スモモの果実肥大やブドウの果粒肥大を図るため、定期的な灌水等を実施する。灌水を行う際、幹や葉に直接水がかかると、病気の発生を助長する可能性があるため、スプリンクラーのヘッド角度等に注意する。
- ・モモ、スモモでは、1回の灌水量を20～25mmで5～7日間隔。ブドウでは、1回の灌水量を25mmで5日間隔を目安に灌水を行う。
立木類の早生種では、収穫期を迎えているため、一度に多量の灌水は品質低下を招くので散水程度の灌水とする。
- ・樹冠下は、敷ワラや草刈により土壌の乾燥を防止する。
- ・灌水施設のない園では、樹冠下を中心に1樹当たり200～300ℓの灌水を行う。
- ・苗木や移植した樹は、根張りが不十分のため乾燥の害を受けやすいので、こまめに灌水を行う。
- ・オウトウでは裂果の心配があるため、収穫中は散水程度とし、収穫後にたっぷり灌水を行う。

（2）野菜・花き

- ・スイートコーンでは、雄穂抽出期（節間伸長期）から収穫までの時期に乾燥すると果粒の肥大が悪くなり、品質低下につながるため、適宜灌水する。
- ・露地ナスでは、抑制栽培の定植時期となるため、購入苗は2～3日間ポットを広げるなどの順化作業を行い硬めに育てる。
定植時には十分かん水し、活着を促す。
- ・野菜・花きの露地栽培では、健全な生育を促すため、定期的に灌水する。
- ・うね間灌水する場合には、日中の暑い時間は避ける。また、株元まで水位を上げないように注意する。
- ・敷きワラや敷き草を行い、地温の上昇と水分の蒸発防止に努める。
- ・乾燥条件が続くと、ハダニやオオタバコガなどの害虫による被害が増加することが懸念されるため、ほ場での発生に注意し、発生初期の防除に努める。